

# ◇平成6年度全国標準積算資料説明会開催報告◇

## …… 岩 手 県                      青 森 県 ……

積算委員会

~~~~~

東北地質調査業協会「積算委員会」では、平成7年2月9日～10日の両日、平成6年度の「全国標準積算資料説明会」を岩手、青森両県に於いて開催いたしました。

2月9日は岩手会場「岩手県国保会館」にて、午後1時より4時までの3時間にわたり、県内の中央官庁、県土木事務所、農林土地改良、地元市町村の技術担当者100余名が出席のもと開催されました。当日は、好天にも恵まれ、久慈、宮古、千厩、大船渡方面の遠隔地等からの参加者も見受けられ、会場もほぼ満員の盛況でありました。

説明会に先立ちまして、東北地質調査業協会の藤島副理事長の挨拶で、最近頻繁に発生した「釧路沖」、「三陸はるか沖」、「阪神大震災」等日本列島の地震活動の活発な動きは、日本には数多くの断層があり、一つの断層が数千年オーダーで動いても、地震の発生頻度は多くなる計算になってしまう等との話もあり、今後地盤調査の重要性が益々高まるだろうとの「地質技術者」としての見解を述べ参加者も熱心に耳を傾けていました。

積算説明会の講師は全地連の矢島専務理事をお招きし、平成6年度改訂の調査編、5年度改訂の工事編について、内容的には主に、コンサルタント業務、今回新たに改訂された部分、新規に掲載された調査手法、試験等についての説明が詳細に行われ、長時間にもかかわらず参加者全員が最後まで説明に聞き入っておりました。又、当日は積算資料の利用アンケート調査にもご協力を頂き、その内容を見ると技術担当の方々が相当の頻度で当「積算資料」を活用している状況が判り、今後ますます「積算資料内容」の充実化を進め、積極的に活用して頂く機会を多くする事が大切であると改めて感じた次第です。

最後に今回の説明会協賛の「岩手県地質調査ボーリング協会」吉田昭夫会長は、県内発注機関の方々の多数のご出席に感謝すると共に、県協会としても地質調査技術の向上に務め、皆様の期待に応えるよう努力していきたいとの挨拶があり、盛会裏に説明会を終了することができました。

翌2月10日は会場を青森に移し、青森県物産館「アスパム5F」で中央官庁、青森県、市町村の土木関係技術者が多数参加のもとで説明会が開催されました。

特に青森県での積算説明会は「青森県さく井地質調査業協会」との協賛で、午前中は地元協会主催による恒例の土質、地質技術者を講師に「技術的な問題をテーマ」にした「技術講習会」を実施し、好評を博しており発注機関の関係技術者も150余名と非常に多くの参加者が目につきました。

講習会終了後、午後1時から4時まで積算資料説明会を行いました。今回の平成6年度改訂調査編、5年度改訂の工事編、共に青森県内では初めての説明会となるため、参加者の方々も熱心にメモを取っている人も多く、前日の岩手県と同じようにアンケート調査を実施した結果、ほとんどの方々が「積算資料」を利用する頻度も高く赤本、青本としての知名度も浸透しているということが判りました。

今年の2日間は共に好天に恵まれ、又、積算説明会は3年に一度の説明会となるためもあって岩手、青森両県共に数多くの発注機関の方々に参加して頂く事ができて非常に感謝しております。

特に調査編に於いては重点的に、コンサルティング業務、新しい調査手法、探査、計測、ジオトモグラフィ等の追加項目、仮設費の計上の見方等も詳細に説明された他、工事編でも主要な改訂箇所を重点的に説明し積算資料活用の上で大変参考になった事と思います。

この度、調査編が従来の大きさから、B5版に拡大され内容もより一層充実し、構成図、図表、略図等をふんだんに取り入れ、判り易く、使い易くなったのが大きな特徴といえましょう。

全地連の積算委員会の編集方針としては、この「積算資料」が積算時の参考資料としての役割の位置付けと、土木技術者の実務参考書として、既存の参考書よりも、よりすぐれていると自負をもって編集にあたられておりますので今後とも是非、P. Rをお願いします。

当協会の積算委員会活動の一つとしての「積算資料説明会」も年2回の開催が定着し、発注機関の方々も、3年に一度の開催となるため、職員の説明会出席に対し、大変ご理解をいただけるようになり参加される技術者も年々多くなってきているように思われます。

最後に、全地連の矢島専務には2日間にわたり積算資料を判り易く説明して頂き本当にご苦労さまでした。又、今回の協賛開催にあたり、地元岩手県、青森両県協会の会員の皆様のご尽力に感謝し、担当理事の方々にはご多忙の中、大変ご協力を賜り無事説明会が終了することができました。関係各位のご協力に心から厚くお礼申し上げます。